文字〻教附錄

紙〻文

全

福澤諭吉著

文字教附錄

手紙ノ文

明治六年十一月

福澤氏版

文字之教附錄

端書

福澤諭吉 著

第一第二文字之教ヲ習ヒ既ニ其文字ヲ讀ミ書キスルニ差支ナキニ至レバ手紙ノ文言ヲ稽古ス可シ譬ヘハ一段ノ文言ニ右ノ如ク尋中上ト アリコノ文言ヲ讀ム法、先ツ右ノ字ハ第一文字之教ノ第三十六教ニアルユヘコレヲ記憶スル筈ナリ〻ノ字ハ表題ノ文字〻教ノ〻ノ字ニ

同シ。阪ノ字ハ一阪ノ阪ノ字ニ同シ。山ノ字ハ山手紙ノ山ノ字ニ同シ。尋ノ字ハ第二文字之教ノ第二十九教ニアリ。中上ハハコノ一段ノ題字ニ出シタレバ文言ノ内一字トシテコレマデ習ハザルモノナシ唯文字ノ真ト草トヲ見分ルコムツカシキノミ文字ノ真草ハ節用字引ヲ用ヒテ知ル可シ明治六年八月二十九日著者記ス

文字之教附録

福澤諭吉 著

一阪

一葉 中上ハ 山手紙 拝見

一葉中上ハ○山手紙拝見ハ○手紙を以て中上ハ○此阪中上ハ○此阪手紙を以て中上ハ○右之阪山弱中上ハ

二限

機燵能　目出度　事有ハ　古返詞

承出　ハ下　可ラ下　難有

古機燵能目出度事有ハ○古返詞ヨリ下承出

ハ○事出ヲ下ハ○よき古品ハ下

難有事有○目出度古事ニ事有ハ

三限

柳子　次第　取計　頼

差上　通り　条　不条

古柳子古尋中条ハ○右ハ次第中ハ○宜

く古頼中ハ○宜く古取計下ハ○此

事一本差上ハ○田舎より使ハ人条ハ○

来返河ふ条に○右し通り○左し通り

四限

内空に　天気　私方　下に

内宅　長成　老　早く

よき天氣に内ゆに○七日私方に出ずるに

に○明日に宅へ参り下ゆに○一日も

早く内帰りて長成に○内返河に老しまてに

○ちきまでし通り内教ゆに○私方より

手願に

五限

熊く　恐入　に内生　差支

由　致方　世ちし　有し

然るに如何ぞ○天象い宜しくい浮世
差支有るに案り難くい○さりとて出を待
いい時に差支る由我方無しい

六限

毎度　去話　此度　お智
お宋　百姓　無事　何も

毎度ごを話とお成雅有まるい○妻とお宋
いても寒くに成ない○去度大坂より手紙
来りい○子供五人何も無事なり○
東京と町とも お智百姓ない○伯父中
百姓い○悪き品い差上申百姓い

七限

持参　預　慥と　お遣

囲入　鷺の　屏　撑

品持参し品柱と領り申し○品領りし
手紙ハ遠ふく届け申し○日ゝし雨ニハ囲
へし○吹ちし大風ニハ鷺へ○撑ながら
此書物ハ届け下し○毎度申上ル通り
私方ニハ差支有ゝし
ハ限

承り　孫娘　結構　裁き

菓子　郵便　書状　禮

横濱より郵便ニ書状参り孫娘新聞を
承りし○結構ふる品菓子裁き難有し○
此用ニかゝり品禮下申上ル○板子次第ニ
書状出し下申し

九段

相談　取極　出立　近日

日限　金子　お分り　積り

兄弟ニ而お相談致し候ハ○相談ニ上ニ而取極候ハ

○未タ何とも取極不申○明日出立致し

積りニ申候○何も近日出立致し積りニ御坐候

何日ニ成ル子ハ未タ取極不申○日限お分り

次第ニ申上ル○七朝ハ出し金子五拾両

慥ニ預り置申ル

十段

老母　病気　唯々　追て

快く　醫師　取寄　看病

所届　家内　多人数　手当り

老母病気ニ付　由中糸り唯々より宅へ帰りれ

○母ニ病気ニ追々快く赴れ　○村中ニよき

醫師無ニ困ル　○某ハ東京より取寄れ

○何事も不自由ニ成ル　○看病も行届

ル中　○家内多人数ニ付手当り事　○此

ハ中ニ付ニ母ニ病事ハ尋ニ不雖有之ル

十一月

流行　眼病　相煩ひ　夜分

寒暖　用事　糸上　便利

不思議　嘆ク　相ク　薬れ

流行ニ眼病ニ相煩ひ夜分ハ書物も見ヘ薬れ

○とりハ手授用ゆ有しかど宅へ寄こ仕業に
○少服薬し由咳くかど困りしゆとあれ○始
て蒸気車に乗り横濱へ参りに扱こ便利なる
ものなり○我ケ森こかもこ馬ゞ活ゆしに由扱こ
不思議なるゆしかどなれ

十二限

夫こ　荷物　片付　明後日

轉宅　此習　損し　一寸

俄こ　発出　上下　石仕

夫こ荷物も片付ゆこ明後日轉宅し積りこ
ゆ仕れ○私方し家ハ此習し風こか損しゆこ付
上所へ轉宅致れ○唯こ少お濟こゆ有し
こ分一寸ゆ仕ハ致れ○俄こ出立こ付留主申

こと事に右仕し者へ夫こ申付置れ○唯々内用
こ付内密へ取計ふ様と存下承度存候○世
話掛申こ付申上下

十三日

昼時　案内　夕刻　差図
茶子　七以て　心配　如何

いて　居　便　弐
昨昼時出下交此日案内申上れ○昼時
に居支こいて夕刻こ申宜くれ○始て居
出茶子ふ案内申宜敷に差図致れや
○權助事を以て帰りふ申大こ心配いたし
居れ○回人より便りし如何致居れ弐と
心配仕れ○如何成計申弐に弐申上れ

十四日

帯留　色々　厚く　深切

上様下　和　丁寧　取扱

簾末　市　進上　杖

此度帯留中い色々ゟ話ニ御ハ○厚く〻ゟ礼

中上ハ○ゟ深切ニ上様下、和ニ丁寧○ゟ丁寧
ニ取扱ニ預り糸ニ存ハ○簾末ニ品々
ハ御ゟ礼ニ市まで〻進上仕ハ○此紙ハ
ゟ子様方進上致ハ○此杖ハゟ老人様
へ進上仕ハ

十五日

先刻　花見　同道　折角

剃甚　入用　拵借

気し毒　分　別　請取

先刻八ツ時及私ども参り申候花見ヘ回道
の段相ゝ申候○折角参詣と雖有い得共
時ゝ変い出申候○壱ツ中上ル○壱ツ中上ル
中授入用ゝ付金子百匁拵借申候○子授

金子百匁入用し由ゝ得共唯今用ゝ無之ゝ付
ゝ金し毒ゝ成ゝ申候○金子百匁入
用し分と相下承知ゝ申候別ゝ使ゝ百匁ゝ
源ゝ門ゝ請取ゝ申候○先ゝ拵借し
金子百匁返ゝ申ゝ門ゝ請取ゝ申候

十六日

親類　周旋　先生　入塾

雇　盛　教師　教授

私義些々報恩ニ仕ル上学問ニ為ニ東京ニ
至ル同家浮世小路堅板四ツ目東ヘ向ヒ
明殻町一丁目有名堂ニ実先生ノ塾ニ入
致シ学中ニ盛ナル学校ニ塾生ニ数三百三
十三名当時雇ヒ外国教師ハ英人「シユウメイカル」呆人「セイロル」ニ両人呆教師ハ洞尾福太郎呆

雇盛ニ印　拙子義一印　先生第七八名ニ日ニ教授ト称ス

十七段

且那　古物造　永快　早速

部屋　氣長　裳生　仕合

不足　安心　序　足袋

當家、幸公し後何もふ自由しゑ幸し旦那
もの新造も誠に深切既に先づ私ゑ少し
不快ゑ申やもみゆ愛早速寸伯母しに菜載き
の新造ハ朝夕私し部屋ゑ出たつね氣長に
幸ゑ生て致やうとおゝいはるの仕合私し身に
取り何ひとつの不足さしゆ申あ心ゑ下れ
一遍ゑ寒さあ成れ百袷一枚ゑ給こ三ゑ
の序しせつ申生ゑ下れ

十八信

骨折　朝晩　掃除　給金

圓　幾　山生　澤山

幸抱　退　自筆　立覽

私ゑ当地ゑ幸公称れ沼田舎と遠し

骨折仕事ハ少く唯相映掃除所使等気を
付け働くことかりこゆゑん
一給金ハ一ヶ年拾五圓ニ定り毎月ニ小金
五拾銭ツヽ澤山ニ預合ニ内無年
九圓ツヽ残り五ヶ年辛抱致ハ其ヲ四拾五
圓ニ金ハ出来ヲ
一私ヲ夜分ハ手習ヲ又ハ文字之教
とヤ書物ニ手紙ニ書きやうも習ひ刈

此ノ手紙ハ私し認めたる自筆ニ付ハ覧
てとトハ

十九匹

返上　催促　急ニ　々暫

猶豫　最早　ヨク　返済

此手五月中相借ニ金ヲ急ニ入用ニ付返上て致

抵ハ僅僅シ台承有仕ル○有ラハ僅僅ニ預リ恐ハ○七暫ク ハ猶豫ヲ下ス ○ 暴昇猶豫致ル義出来ル○ 子ニハ返答ヲ下ス ○ 多分ハ僅僅ハ事ニ毒ヲ盡ス速ニハ返答ヲ取ル

二十匠

涂　畿足　幾計　面倒

調　帰化　持帰　真書帳

拾對　初編　附録　拾部

若　新版　翻譯書　殘金

明ハ涂ハ畿足シ由天帝ヲ宜シクヨキニハ都合ヨリ出ス義ヲ計シニハ帰国ニハ書ヲ用ル

内面倒忍のハ消之滞留中　左之品内
調内帰仕之内持帰り事無ハ

一　煙管　壱本
代金十五銭位之品

一　真書筆　拾對
同　壱分四銭位之品

一　文字之教　初編拾部
附録之冊代金二十銭位之由承リハ

一　時計　壱ツ
代金拾圓位之品

右之品代金として金拾五圓差上置ル筈
残金内渡ハリ新版之翻譯出来ル迄
預ル

二十一日

栗船　安産　出生　見菊

一打　利足　借用　證文
手掛り　人物　絶ル　古場
景気　船来　出買物　仕入
積送　店　繁昌　何卒

山乗船後当方何も御留守ニ付御拾子供
詰ニ成事子供ハ日ニ増校く来ル山ハ
心ニ下れ
当月二日上町おたち御あ産女子御生
産七どのくハ兼ル御おまく御ちゝ御ん
ニ付見舞ニて菓子一打遣ス
日四ツ半右衛門より二月ニ付賃金千ル両
利足ニ成返済ニ付金子請取り借用證文ハ

さて五ツ
同日山田より来る山田より高賣し手拭り
有しを金八百匁借用致し度との事ニ
付兼而之人物宿屋に申聞り申ス
此夜五後七後両度降り雨田畑水切也
米之場ハ日ニ暑気宜くス
東京横濱より船来ル四日和し場ハ出ル
敦賀より澤山ニ仕入積送り下ス

此間主中 庶ハ無品ニ付女ばかりニ而心配
多く困入ル何卒一日も早く出帰り成ル
様ニ祈ル

二十二辰

一条 町内 寄合 不取敢
戸長 熙之 久般 衛道

殺害　始末　於て　殘毒

證拔　為分　所為　推察

仕なし一条に付而は村方二回大に心配仕候○所
内し者共寄合ひて一家殺戸長迄届け置
れ○與一左衛門は私も兼而熟知致候何事に
寄ても同人に対し決て信し変なる般山崎街

道に而殺害に逢候始末私に於ても深く殘毒
に堪へ右殺害に付未だ嫌疑ある證拔ハ子細
なき為分定九郎し所為と推察致し
二十三日

心得　只管　使　と拉ぐ

諭し　趣　保し　きに仕ハ

家来　考　人間　目當

際要　仮令ひ　當然　従ふ

父母と主人とハ主理を云ふ者と心得何事ニ寄らず只管父母主人ニ中仕ひ中和ニ渝し
し趣承ハ仕れ併し主理とハ道理なきもの
中義ニ可有之ハ為主人と父母の心正し

このゝ如くして家来たる者又ハ子たる者人を殺
し物を盗ミ仕中ハ其節ハ如何ニ致ス哉私ニ
考ニハ人間ハ唯道理を目當ニ致ス事と緊要
ニ而道理ニ背く事ハ仮令ひ父母主人ニ差図
ニ成ても仕ざる方當然ニ義と心得れ

二十四ノ

淺海　お今り　雑へ　雑別

非　譬へハ　誰　入込

事柄　固より　唱　心掛

人間ハ唯道理を目當ニ心ヲ理ニ省く事ハ又毋主人ニ付ても少き差支ヲ生ずるを以て後悔し次第ニ多くハ保ち世の中ニ事ニ付理と非と或雜ヘハ中ニ雜き古人を譬ヘハ人を殺し

物を盗む悪事なるハ誰も心得此一ニ至ては又毋主人ニ言ニ省くも固より差支ヲ生ずるハ少ク入込たる事柄ニ至ては無学文盲ニ而ハ道理を辨別致ヘハ義迚も出来ず私考ニハ只管口ニ而道理ヲ唱ヘハより強ク心身ニ學問ニ心掛ケ事ニ理非を辨別して後ニ道理を唱ヘハ義人間ニ一ニ務と存ん

二十五ニ

漢法　醫道　廢て　止め
血税　運上　始末　戸籍
人別　團子　紛失　尤
旧暦　家業　妨　不審

一漢法醫道を廢することハ井戸を止めて埋るし義と子し醫道と井戸とハ文字同しかゝ
一血税とハ人し血を取るとゝ何ぞ運上と血を取り集めハ何を始末と困り事
一戸籍を調べ人別を改めハ娘を外國へ渡すためとあらぞ仮令ハ家ハいとゝ子学文育役を立さぬ女の子ハ先方ニ而請取申ず敷ハ
一十五夜と團子團子紛失致ハいとゝたら

バ心配シ辰ニ出ル発ス者キ月ヲ出ル見ふ
お成ルトテ出家業シ出ル妨ニ出ル来ル義四暦ル
暦シ義ニ付ル不審ニ付ル改暦雑ト中書物ニ見ル成ル

二十六辰 前辰ノ續キ

四知事 時勢 占ル 判断
自分 失物 稼キ 針金

文通 合図 仕様 便利
迷惑 至極 一揆 損亡
別前 界 暫く 見合

一四知事様ニ帰リ上ル待兼シ中ニ出ル時勢ヲ以テ
占ル変ル人来ル出ル判所ニ出ル申ル

ニ付ハ心配ヲ以テ自分ノ家ニ失物サシ拵
働キ稼キシハ心掛ヲ一ツトスルコレ
一カノ長キ針金ハ傳信機ニシテ遠國ヘ文
通シ合図ヲスルハ仕掛ニシテ皆拵ヘシハ便利ト
存シ色々心配シ上オ来ル安右ヲ日本ト外國トノ
界ヲトヽ拵ヘシヲモ誠ニ迷惑至極ニハヤン
一右等ノ義ニ付一揆ヲ起シハ元ヲ日本國中ノ
損亡ニ成ル故割茶ハ国家人別ノ為タメニ拵

りれるゆへ一揆ハ出来ぬ様方し学問ハ上
達迄暫くハ見合ヲ安深く考ヘ給ヘ

二十七段 此一段ハ悪文ノ例ナリ

僕數年前ヨリ宇内ノ形勢ヲ洞察シ國元ニテ新
ニ不毛ノ地ヲ開拓シ専ラ農ヲ勸ルノ目的ニテ
桑茶等モ植付候處何分ニモ財本ニ乏シクシテ
遂ニ其事ヲ果サズ尚又水理礦山器械ノ事ニ付
見込有之再三縣廳ヘ建白致シ候得共折節長官

ノ面々轉任ノ際ニ當リ僕ノ建策モ採用不相成
爾後坂地ニ遊ヒ同處ノ景況ヲ察スルニ其地勢
正シク皇國ノ中央ニ位シ人戸稠密市街壯麗舟
楫ノ利陸運ノ便四通八達來往自在左ニハ京師
ノ富實アリ右ニハ神戸ノ繁榮アリテ相共ニ其
羽翼ヲ為シ凡ソ天下ノ富商大賈爭テ此地ニ輻
湊セサル者ナシ全國ノ富有十分ノ八九ハ大坂
ニアリト云フモ亦溢言ニ非ス既ニ地ノ利ヲ占
メ又金ノ權アリ商法ノタメニハ實ニ海内無比

ノ要地ト云フ可キナリ唯如何セン不開化ノ商
人等私利ヲ營ムニ汲々トシテ大業ヲ企ルヲ知
ラス蠢爾トシテ旧物ヲ墨守スルノミ僕コレヲ
傍觀スルニ忍ヒズ乃チ一策ヲ案シ今此大都會
ニ於テ盛ニ航海ノ術ヲ開キ貿易ノ商社ヲ建テ
其方法ハ專ラ新奇ヲ求テ他ノ糟粕ヲ嘗メズ人
ニ先テ人ヲ制スルヲ旨トシ茶絹糸等ノ如キ尋
常ノ物品ハ既ニ已ニ陳腐ニ屬シタレバ斷然コ
レヲ取扱フヿナクシテ更ニ世間未發ノ貿易品

ニ眼ヲ着シ皇國製造ノ武具馬具膳椀火鉢行燈疊建具下駄雪踏草履草鞋夜具蒲團足袋頭巾其外一切古着ノ類婦人髪飾ノ品ハ櫛笄元結鬢附ノ類食料ハ味噌梅干澤庵ノ類ヲ撰ヒ是等ノ物品ハ人間普通ノ需用品ニテ世ノ貿易家未タコレヲ輸出スルヿヲ知ラサルモノナレバ今人ニ先テ此貿易ノ權ヲ我商社ノ一手ニ握リ皇國内ノ開港場ヘ運輸スルハ勿論或ハ上海香港ヘモ往來シ遠クハ西洋諸港ニ至リ五大洲ノ人民ト

廣ク貿易ノ道ヲ開クヿアラバ皇國ノ商法更ニ一面目ヲ改メ三年ヲ出ズシテ英亜諸國ノ商社ヲ壓倒シ我皇國ヲシテ世界第一ノ富國タラシメ皇國既ニ富ミ皇兵モ亦從テ強盛ヲ致シ皇道以テ振ヒ皇法以テ立チ皇威ハ燿キ皇名ハ轟キ五洲ノ人民皇風ニ靡ヒテ皇德ニ化センヿコレヲ掌ニ指スガ如シ斯ノ如クナレバ則チ上ハ以テ皇恩万分ノ一ヲ報シ下ハ以テ皇民福慶ノ基礎ヲ開クヲ得ント獨リ自カラ心ニ決シ東走西

馳百方說諭ヲ費スト雖モ嗚呼天ナル哉大坂ノ町人輩一人トシテ僕ガ策ニ從フ者ナシ

右ノ次第ニテ徒ニ三四年ノ星霜ヲ過キ目今ニ至テハ一身活計ノ方法モナク春來旧友ノ家ニ食客相成居候處内實ハ同家ノ細君客ヲ待遇スルニ禮ヲ失シ僕竊ニ憤懣ニ堪ヘズサレ乍今去ラント欲シテ他ニ依賴ス可キ處モナク進退惟谷ノ塲合ニ陷リ當惑ノ次第ニ候何卒右ノ情實愍然ト被思召可然官途ヘ御推舉被下度實ハ奏

任以上ヲ企望致シ候得共差向ノ處窮鳥枝ヲ撰フニ遑アラザレバ枹鬨擊柝固ヨリ辭スル所ニ非ス等外出仕ニテモ謹テ拜命仕度候間幾重ニモ御周旋奉願候也

コノ二十七段ノ手紙ハ事柄モ馬鹿ラシク文言モ馬鹿ラシク文字モ亦馬鹿ニ。ムツカシキ。モノヲ拾ヒ集メ。皇ノ字ナドヲ。ムヤミニ用ヒテ。アリモセヌ熟字ヲ作リ實ニ取リドコロモナキ難文ナレバ決シテ手本ト為ス可キモノ

ニ非ザレモコレヲ一段ト為シテ巻末ニ記シタル趣意ハ世間ニ折々コノ体ノ難文アリテ讀ム人ヲ苦シメ或ハ少年ノ輩コレヲ見テ文言ノ悪キヿヲ知ラス徒ニ其真似ヲセントテ時ヲ費ス者モ多キユヘ。ワザト心得ノタメニ一例ヲ示シタルナリ都テ文章ハ。ムツカシクシテ學者ノ作ニ似タルモ事柄ハ至極馬鹿ラシクシテ笑フ可キモノアリ元來文章ト事柄トハ全ク別モノニテ。ツマラヌ事モ。ムツカシク書ク可シ大切ナル事モ易ク書ク可シ難キ字ヲ用ル人ハ文章ノ上手ナルニ非ス内實ハ下手ナルユヘ。コトサラニ難キ字ヲ用ヒ人ノ目ヲクラマシテ其下手ヲ飾ラントスル歟又ハ文章ヲ飾ルノミナラズ事柄ノ馬鹿ラシクシテ見苦シキ様ヲ飾ラントスル者ナリ譬ヘバ本文ノ末ノ段ヲ易ク書ケハ左ノ如クナル可シ

右ハ次第ニ而徒ニ三四年を空ぶし唯々となり

てい獨身にして世俗にも用ひず爾以来友達に家に居ればいとゝ変家内に向ひてをつかさま私も心に内に立腹いたし深くを更何変くとやと俗りまがる所き先きもなく途方に暮れ次第何卒憐れとと思召よき役人に口へ取扱ひて実に給金に為き方を望まれ差向き変金に多少を問ず場合に応じ門番にも小使にも苦い写裏書きを話まれ斯く易く書ケバ誰ニモヨク分リ隨分讀ミヤスキ文章ナレ𪜈九出シニテハ見苦シキユヘ無益ニムツカシキ字ヲ用ヒテ其見苦シキ様ヲ飾ル趣向ナリ

今ノ世ノ中ニ流行スル學者先生ノ文章ト云フモノモ其樂屋ニ這入テ見レハ大低コノ位ノ趣向ナルユヘ少年ノ輩必ス其難文ニ欺カレザルヤウ用心ス可シ其文ヲ恐ルヽ勿レ其人ヲ恐ルヽ勿レ氣力ヲ慥ニシテ易キ文章ヲ學フ可キナリ

文字之教附錄終

福
21-12
著作